

日本州名解

完

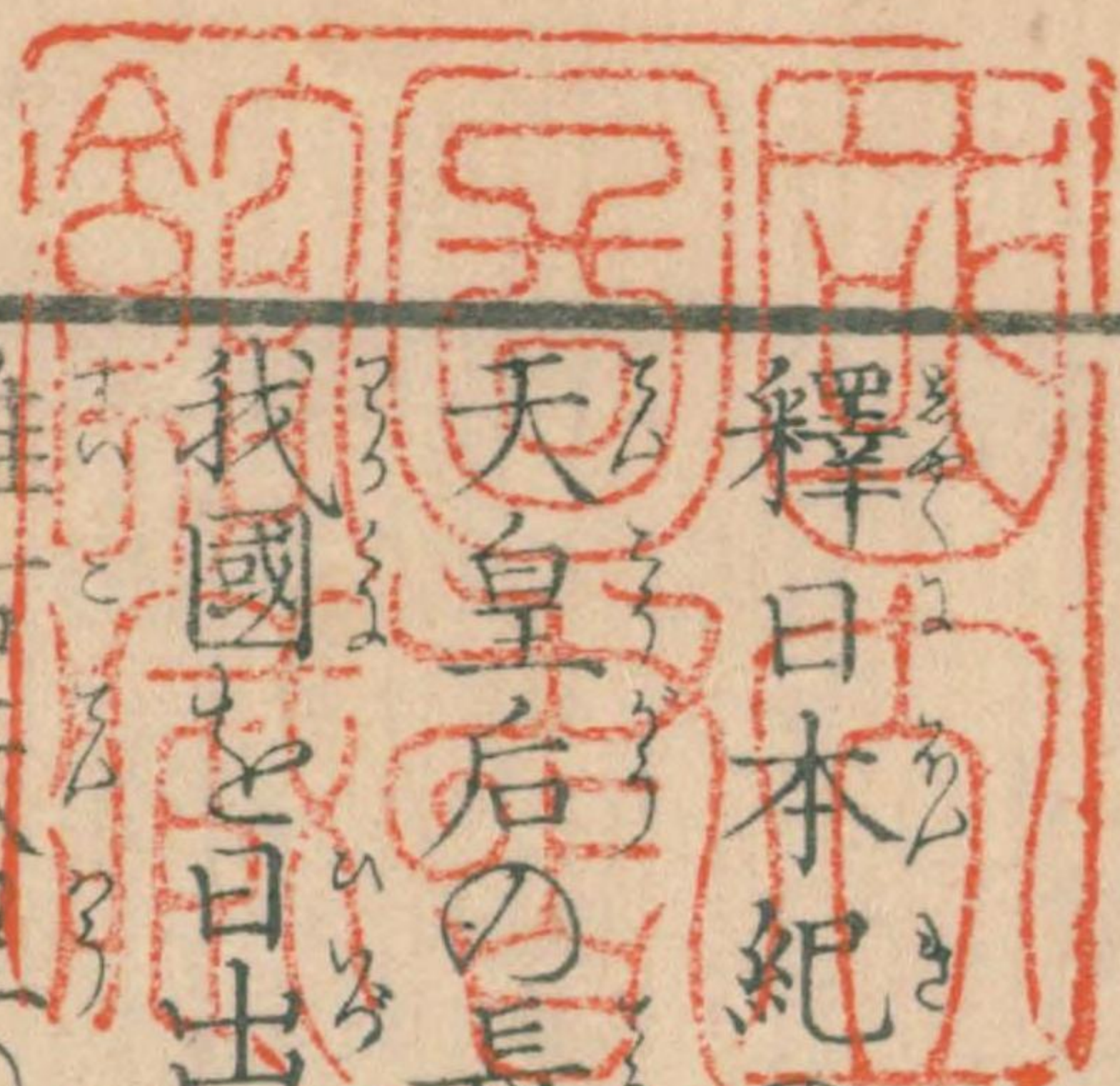
863
54



信し、終りて、其のついでに、
と、そのついでには、士習の編輯の事と、
いふ、は、なり、吾皇國よ、生まれあひ、
と、留め、れ、ぬ、や、ハ、士習、よ、あ、り、て、
人、と、小、若、く、も、い、ふ、よ、う、に、
し、や、い、ふ、事、あ、つ、て、梅、澤、教、典、志、す、

日本州名解

江戸 完堂阿部傳 緝



日本國乃說

釋日本紀の延喜講記云日本とい唐より号る所あり唐の則
天皇后の長安三年日本より大臣朝臣真人を遣して方物を贈る
我國を日出る所小近げまはとて始めて日本國と号たり然れども
推古天皇の十四年小野妹子を隋の國に遣さる其文云日出る
所の天子より書と曰没る所乃天子小致とあれは是等因て
我國を日本國と号らるる然れは彼より号ふにあぞ我自号也

秋津洲の說



神武天皇の三十年小車駕巡行あり腋上の丘小登りありひて地の形をのぞきしむる小蜻蛉の腎の如くありしむる秋津洲とならむるため小蜻蛉と秋津とい國音の近あれはなり

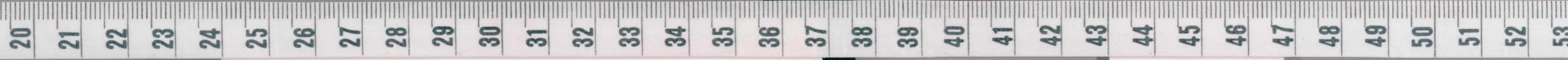
大和の説

倭或和の字とやまると訓をり神武天皇天下を平治し山跡乃國檀原小都と建天皇の御位小即もひ其功勞ある者と賞國造の官をたぬひすべし百四十四國の國造を置り其時都と建られ國をれ其名廣くありて後小皇國の總号とありしむる故大の字と添て大倭と云倭和の二字とやまると訓をり山跡の舊名を襲てあり今一國の倭も大の字を添るは彼二字を用の例なり案小神武天皇の御宇小一郡とて國とありしむる國造あり

一より百四十四國といあはれしむる實は百二十五國あり嵯峨天皇の御代小越前の國を割く加賀の國を置れしむる國名一定して六十六國二島といはれり

君子國の説

唐書小云此歳日本國より大臣朝臣真人を遣して方物献貢す日本とい倭國乃別名なり云唐人我使小謂らくはむく聞海東小大倭の國あり是と君子國と云人民豊樂小して禮義厚しと今使人の容儀を見小大小浄し誠小信ありしむるはと云是彼國より我國をよして君子國と称するの證とすべし





日本紀小伊弉諾伊弉册の二尊才ノ口島よ降臨はしこまみ淡路洲と生るひとして大日本豊秋津洲と生るひ次小伊豫の二名の洲次小筑紫乃洲次小隱岐の洲佐渡の洲次小越乃洲小大洲次小吉備乃子洲を生るひまされり

東奥の夷地武内大臣の言
高領の領と有る天野と云
少く廣き良田有地と云る

東国をこして吾孀と云
と景行帝紀小曰甲斐
の北より武藏上野と云
る西の方碓日乃阪
小日本時小日本武
尊每小橋媛と云
きひの橋と云る



大八洲の隱岐地
弓起
と名天孫
日向の高十
總の峯小降り豊原
中津國と治り知りは是
より鶉鷄茅葺不合尊ま
ぶるひ日向乃地小都
のり其後彦火出見乃尊
諸國を平定し大倭の
國橿原の都あり帝位小即
まされれど人皇の
伊弉壹政也

故小の嶺あり
より東南をのどよれ
て三つ入の嘆と云ひ鳴
乎吾孀邪と云るを
ゆる是ふりて山
東の国と云吾孀
と云る



日本書記云蝦夷と稱する者三種あり陸奥の蝦夷、
 越の蝦夷、齋田の蝦夷、停代の蝦夷、膽振鉏の蝦夷、問菟の蝦
 夷、あり伊吉の連、博徳の書云天子問く、此等ハ何蝦
 夷國、被許種と使人作、答て曰三種あり、遠者
 都加留と名、次小麁蝦夷、ちり、熟蝦夷
 奥羽ハ、聖武帝の九年、小鎮守府將軍
 大野の東入のひ、者、幾獨其
 内渡島の蝦夷とあり、今
 乃松前の蝦夷と云、
 夫蝦夷と討て、阿部の比良、
 田秋田、淳代、野代、津輕、と平、
 治、渡島の蝦夷、肅慎、
 伐同五年、征して、後、
 羊蹄と政所と、郡領と置て、
 歸軍す、の、津輕等の諸
 郡、越後の管する所とみ、
 後年天平の、蝦夷再乱の時、



畿内 北山抄ふらふくふと訓す

山城 上八郡

舊事紀小山代或ハ山背小作國名風土記小
山代ハ物の種と時養ふ所と代と云万葉集
小開木代と書ハ古の義より一説小生駒山乃
背小ある国なれば山背と云又山城志小大和の
国の北小ありと云く即山陰の義 其頃
より日本後記小云延暦十三年十月詔あり
山河襟帯て自然小城と云す国なればより
山背と改て山城と云ふべしと云
繼體帝の五年小始て都を當國の筒城よ
遷す其後所小遷都あり桓武帝の御宇
ふらび當國の長岡ふらむと云後まて平安
城ふらむと云れ即今の禁裏是より



大和 大十五郡

舊事紀小大倭小作釋日本紀小天地剖判て
泥湿未乾す人皆山小栖て往來する小因て
跡多し故小耶麻止と云山小止住の義あり
延喜開題記小大倭の国古未と居舎
あはれ人山小栖て住り因て山戸と云
一説小四方と云る山あて中平の国と云
山門と云ると云又或説小山處山
秀等の考あり四面山と云る国故小
以上數種の説ある也職原句解小
天神の窟小入る時糠戸の神天の香山
乃荒金と取日矛鏡と作り御怒と慰
其金と堀山跡の国と云る故小山跡と号御怒
と和と奉る故小大和と改む續日本後記小
云天平九年大倭と改て大養徳と云り同十九年又改て



河内 大十六郡

姓氏録小凡河内小作古事記及び
 国造本紀小大河内小作れり古事
 記傳よ倭の京ふて山城乃天川の
 此方小ある国なれど河内と云も
 と大河内と云一城諸国の名必
 ず二字ふさざりしれり大とバ
 除き一と云と云拾芥抄小云神
 護景雲二年十月小西の京河内の国
 と河内の職とす同四年小職を改
 りて又国とす



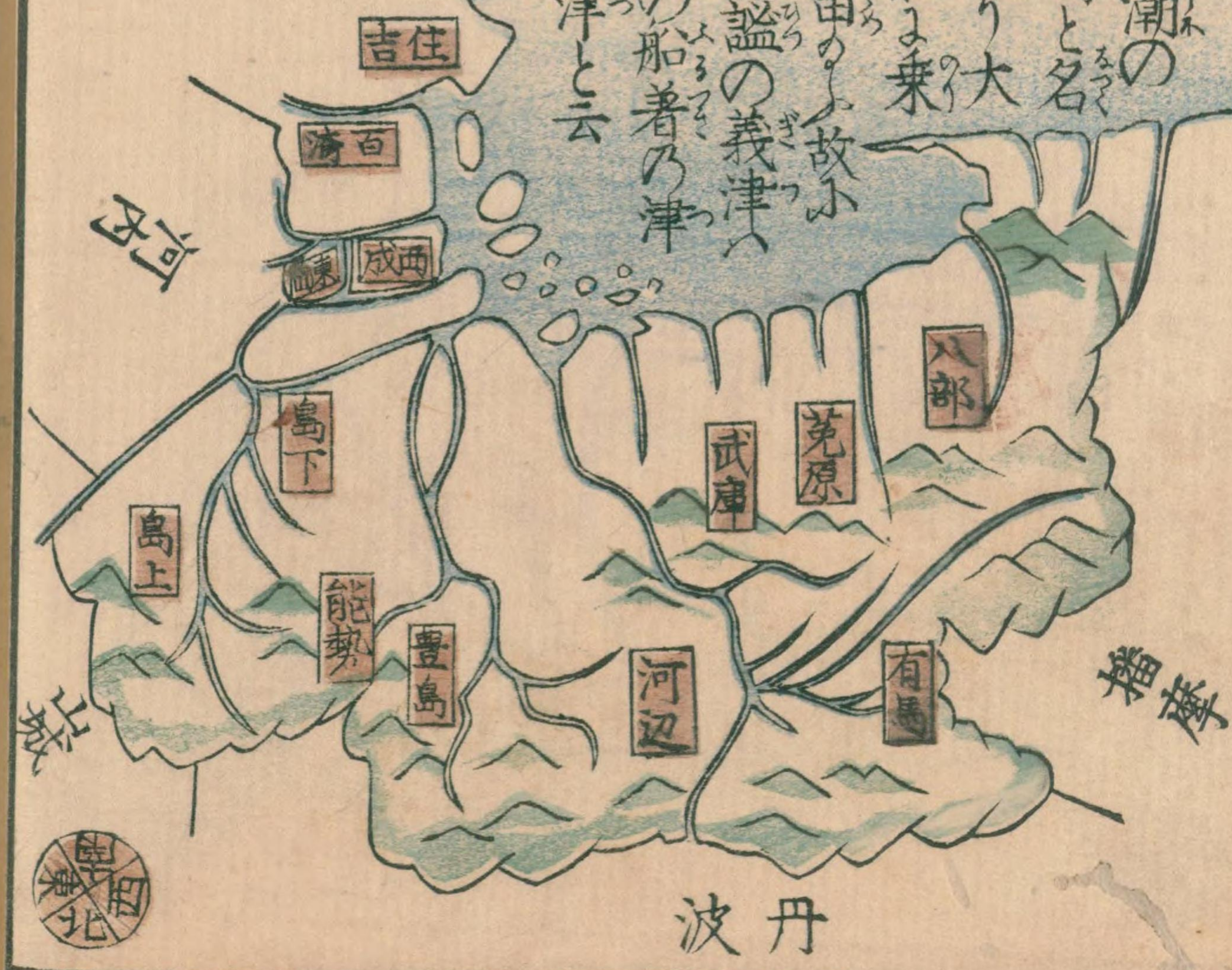
和泉 下四郡

国名風土記小云此国清と泉と出せ故小郡の
 名とせし後小国の名とせし或ハ云
 今を府中村小和泉の井と云るあり自出度
 清水なる故小にぎらりと号て和泉と
 書しり
 国造元と河内の国と云る靈龜元年よ
 茅野の監と割置改て国とす元ハ珍
 務の官と云類聚国史小元正帝
 靈龜二年四月甲子の日河内の
 国大鳥日根和泉三郡と割て始て
 和泉の監と置延喜の年小其監
 と改て和泉の国と置とす



攝津 上十二郡

舊事紀小神武帝東征の時奔潮の甚き小出逢の故小浪速の国と名又浪花と云今難波と云訛る大和本記小云天孫天孫女と天の磐船に乗て徘徊ありて舟と難波の浦小留の故小其地と号て高津と云二説小撮ハ静謐の義津ハ湊津と云此国難波の堀江天下の船着の津小して帝都安泰の地と云故小撮津と云玉勝間小職員令小撮津職小く津の国と兼帯と云あり撮乃字ハ難波と津の国と撮て掌の由やく静謐の義小ハあり



東海道

民部省の圖帳小の東海濱道とありてうまらちと訓せり

伊賀 下四郡

舊事紀小伊賀の国造(成務帝の朝小武伊賀津別命と国造小と云延長の風土記小伊賀の国と伊賀津姫の所領也)し郡と云小依て郡の名と云亦(伊賀)国の名と云と云あり伊賀の国風土記小云吾娥津姫命乃まきまきりる小国と云因と云吾娥の郡と云天武帝の御宇小吾娥の郡と分て国の名と云吾娥と伊賀と音の轉トあり倭姫の世記小云天武帝庚辰の歳七月伊勢の国四郡と割て此国と云



伊勢 大十三郡

此国と伊勢の国と名づくも故は
職原句解小云按つも小国の名
神代小のり時と其起ゆり
と遠く国津神伊勢津
彦乃住する所しる
よりてまる国と伊勢也
有或説小伊勢ハ伊須受の約しる
孝徳帝の五年小しる
度會郡と置り



志摩 下二郡

風土記抄小云志摩ハ和名なり
伊勢の島の意いち地方ちをしる
海中うみ出いる島しまらればなり後小国の
名なとなすと云此国の答志郡答志乃
崎ハ海中うみ出いてま河の国くになり
島しまられば合あはれる島しまらればの国くとなる
津の国の造つとあるはまの国乃
国造くの靈龜二年四月志
摩の国塔志郡五郷ごを割わりて
佐藝郡と置く然しかも後小
廢する



尾張 上八郡

舊事紀ふ尾治小作る尾張風土記よ
曰神武帝東征の時海部佩室乃
臣帝と射奉る天種子命三角の
石弓及び玉太羽の矢と以て佩室の
臣と射殺し海部の氏姓と討終る
是小因く此国と於波里の国と云尾張と
云音の訛なり一説小當国なる執田
明神の草薙剣と祠れるより負 且
一名さるる古事記彼斬るる刀の名ハ
天の尾羽張と云古事記傳小尾羽張と
と劍の先の中廣と云ふよりみ
まよりかれハ草薙乃劍を劍の尾
乃中張る故也や

まのあがりけりむ



參河 上八郡

舊事紀ふ三川小作る參河風土記の
逸文小當国小三の大川あり
一、小男川則今の大平川
二、小豊川則今乃吉田川
三、小矢作川是より故小三河
の国と云男川の河上小白髪明
神の社あり豊川の河上小長者
ありと民家豊より故小豊川と
り矢作川と日本武尊東征乃
とさ河辺よりむひく矢作つら
らより故小矢作川と

つらとあり



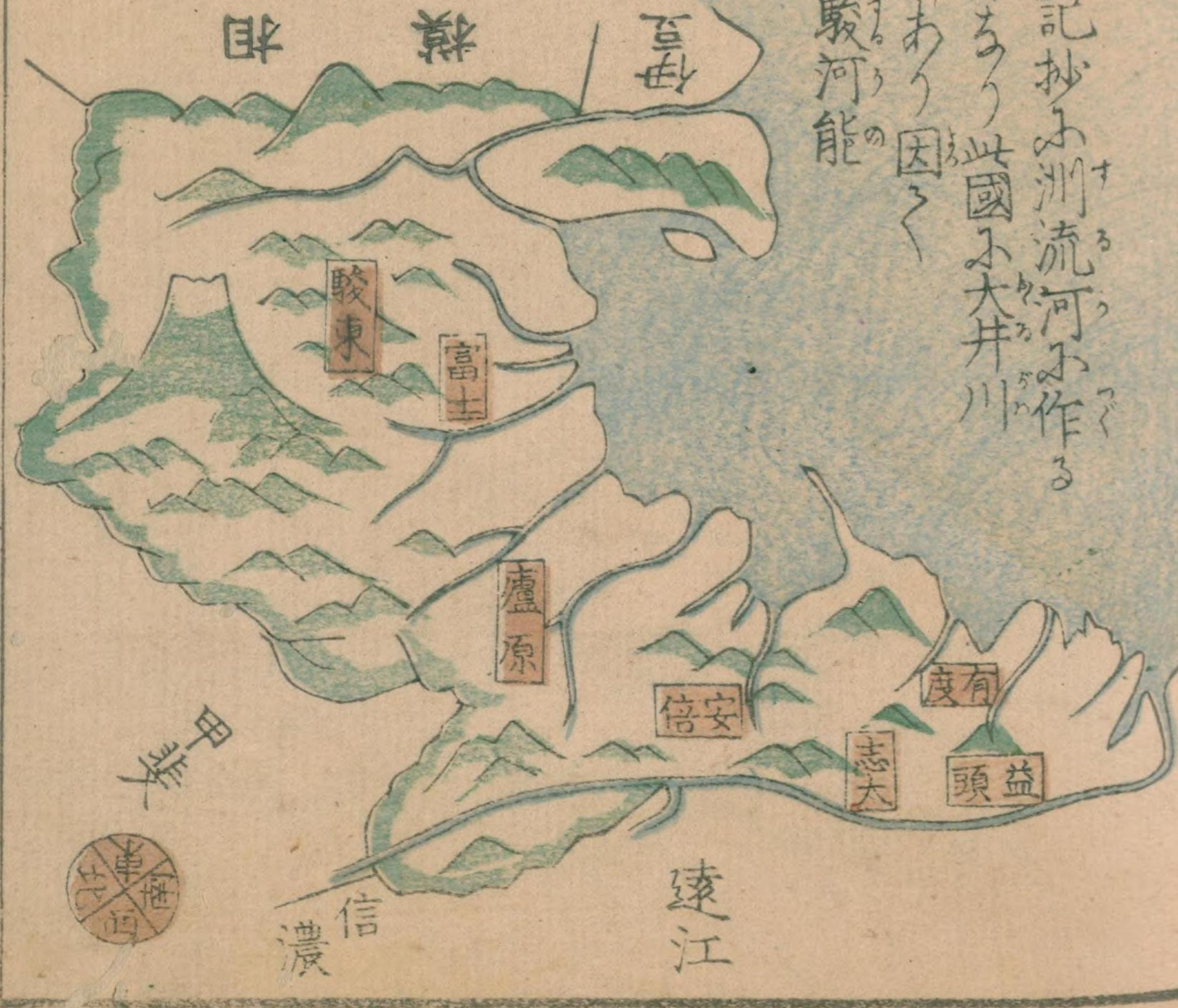
遠江 上十三郡

舊事紀小遠淡海小作風土記小遠江初と遠淡海と書一が
 此国小大江あり都より遙小遠故
 近江の國乃京小近き小對して遠江と
 名づく明應の頃湖水決て海水乃
 泝こあり今其地を今切と名づく
 撮土記小云昔此國小湖水あり猪の
 鼻湖と名づく小や延喜式人名帳小
 猪鼻湖の神社あり按むる小今の
 遠江の名いむる一の遠り淡海の
 訓と抄ふる小用こあり
 和銅二年二月遠江の国長田郡とて
 長上長下の二郡とす養老六年小
 佐益郡とてけて山名郡と置



駿河 上七郡

舊事紀小珠流河小作風土記抄小洲流河小作
 日本釋名小駿河の駿川の畧語なり此国小大井川
 阿部川富士川等の駿なる川あり因こ
 国名とす万葉集小打縁流駿河能
 国云ありまこ此国の
 川は山よりり落て海へ
 入るみりのけり
 け色ば川波はよく
 ろららるる勢ひ鋭
 尖るりうめく
 尖川国と云
 とうへ



伊豆 下四郡

風土記抄云伊豆和名多
 東に相摸あり西に駿河あり
 其間ありて海中不出る国あり
 故に伊豆と云伊豆の出るの義あり
 又同書云此国に温泉あり
 伊豆の泉乃下畧多古本
 和名抄に温泉一以天由と云即出湯
 ありとあり 此国に今も熱海走湯
 山伊東松原と名の温泉あれば伊豆
 出湯の約ありてありて 舊事紀より
 孝徳帝の御宇駿河の国に隸天武帝
 乃御宇に分置し
 故の如し



甲斐 上四郡

續日本紀云歌斐小作或書云云
 當国に山峰の間小夾る国あり故に
 山の峽の義ととりて甲斐の国と
 名はくと云加比の間と同一和名抄
 小峽に山間の狭處あり俗に 以嶺
 山の加比と云又一説云此国に
 馬の牧ありて毎年駿馬を貢る
 甲斐に即飼ふて駒を飼養の義
 みて国号とせしめやよと東
 国に上古の國の名ありは
 日本武尊東征ありて後
 として東国の名と



安房中四郡

舊事紀小阿波... 古語拾遺... 云天富命... 率ひ... 所乃阿波の... 齊部の居... 乃總国安房の... 郡と... 元四国の阿波乃齊部の... 居... 故... 安房郡... 名... 職原大... 云養老二年... 五月小上總国四郡... 割... 乃国... 置... 天平十三年十二月... 上總国... 天平宝字元年



上総 大九郡
下総 下十郡

古語拾遺小云天富命更小沃壤... 阿波の齊部... 東の土... 率ひ... 麻敷城播殖... 麻の生... 故小総乃国... 云上古小は麻... 総と... 故... 或書... 和名抄を引て... 云下総国相馬郡小布佐の郷あり... 續日本紀小... 物部小事連節... 出... 改東を征伐... 小... 功勳... 下總の... 賜... 始... 西瑳の郡... 是物部西瑳... 連熊井等の祖... あり... 乃西瑳の佐... 總... 此国乃風土記小總



木の枝と云い此国より大なる
 楠を生し長數百丈ふ及べり
 帝これとあやしみ是城
 卜占いせむふ大史これと
 天下の大山事なりと奏す
 され小のりせの木と斬りり
 小南方ふまじり上枝と
 上總と云下枝と下總と
 今世りのりき
 畧語なり



常陸 六十二郡

古事紀小常道小作或説小日高ハ
 景行帝紀と思小今の蝦夷地小常陸
 と彼日高ハ通ふ道多き日高道なりと
 たり或云い此のりき
 の道乃くともいこちとよめる東海道の
 極々多きなりと云風土記小云此国の常
 小潮満の民家多く煩あり故小詔して云
 乾立之陸と云ふ百姓安らんと故小名
 ていこちと云日本釋名小此国ハ都より東
 の端小至るまで陸地ある故小常陸と云
 ひこち乃畧語なり神宮記小云孝徳
 帝の朝茨城國を割て行方郡を置茨城
 後小郡と云る白雉四年小又筑波茨城の
 二郡と分て信太郡と置



飛驒 下四郡

舊事紀小斐陀小はくも或説小飛驒を挽手入
り負一名あるべし其の国元良材多くして
其の民を邪匠丁と名へり国名とす
万葉集小云々物者不念斐太人乃打墨
繩之直一道二とあり風土記抄小云飛驒
は元美濃国乃うらうりの名あり
近江乃大津宮とありと云ふ
當国より良材多くて一
駄乃木を負く大津よりと云ふ
其をまきこと飛ぶと云ふ
故に飛駄と云ふと云ふれを古
字音と云ふと云ふ

傳會乃説あり



信濃 上十郡

古事紀小科野小りくも信濃国風土記小
建御名方神等の住せまみ地あり云此
国は巡行し阿羅野小到坐
詔す此国ハ木葉草の垣葉品々
ある故小品野と云今信濃と
云ハ音の轉ト云あり古事紀
傳小ハ級坂ある故の名ありと
あり志那ハ坂路と云或云當国
小ハ級の木乃皮と多く出す是
を麻代と云用ゆ故志奈と名
づくと云續日本紀小養老五年
信濃国を割く詠訪国と云天平
三年小詠方国と廢一再ハ
信濃国小并すと云



出羽 上十二郡

或説小出羽越の道乃尻と道の奥
 多とくらの出端の国と云く下風土記よ
 云允恭帝の御宇小此国より鷲の羽
 を貢す故小出羽と号し云續日本記
 小和銅五年十月陸奥国の最上置賜
 乃二郡を割く出羽国小隸一む国
 造本紀小諸羅帝御宇和銅五年
 陸奥越後の二国を割く始とする
 国を置とあり天平五年十月出
 羽小雄勝郡と置延暦廿三年十月
 出羽国秋田城と停て郡とす
 職原抄小云陸奥国へ上古より約要
 小く國廣げまへ元明帝の御宇
 小今て出羽の国と置り元正帝



の御宇養老二年小按察使
 おひく西国のことと監察せ
 一り林の後聖武帝の二年
 小陸奥国乃ちちり
 鎮守府を置く府と国と
 相ちんご国のことと
 行ふやあり



北陸道

西宮記ふくろのあち又まきのあちと
よりり北山抄りへ久流加の道とあり

若狭中三郡

風土記抄ふ云む此国小
男女りり夫婦とあり
長壽ふく容兒若と少
年のことく其年数とあり

このあちり一小後小神と
ありり今の一宮神是あり
故小若狭とつ小撮土記ふ云
若狭国の若狭彦若狭姫乃在
国なる故小若狭国と

号とつ小



越前大十郡

舊事紀小高志よりくる古事
記傳小越後國小古志郡あれ
りとあり出る名とあり
或ハ云越前敦賀郡へ行道小
道の口とつ小地なり此国乃古
名小かありり職原大全小越の
国ハ今の越前越中越後加賀
能登ありり日本紀纂疏小角
鹿乃坂とありとありり内城
とありり越の国とあり
角鹿坂とありの義城
とありり



加賀上四郡

舊事紀小賀我々作風土記小日本武尊
諸国と征伐一荒山とて北陸
道小下り其時尊の兄大碓の
皇子尊の軍勢微小して夷小
ほれとて人恐を数千の兵
と率いしりて江沼国にて御逢
ある軍勢を加へ御無異と賀せられ
故小江沼の国乃名とありて加賀
国とよせと云或云大和国城下郡
鏡作を加都久利と云例あり昔より
その国より鏡磨師あまし出る故
三月丙辰越前国加賀江沼の二郡と割く

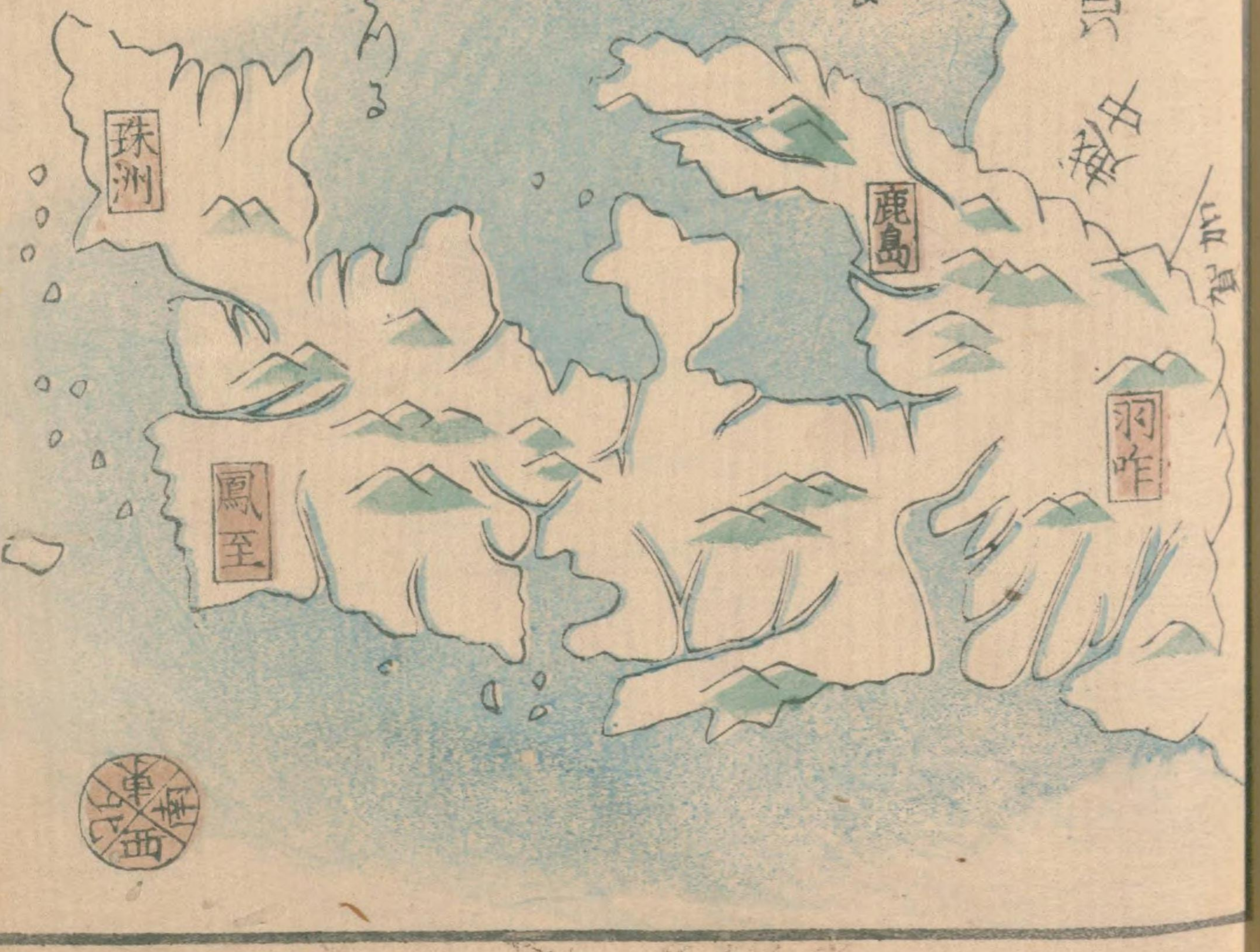
加賀国とよす



能登中四郡

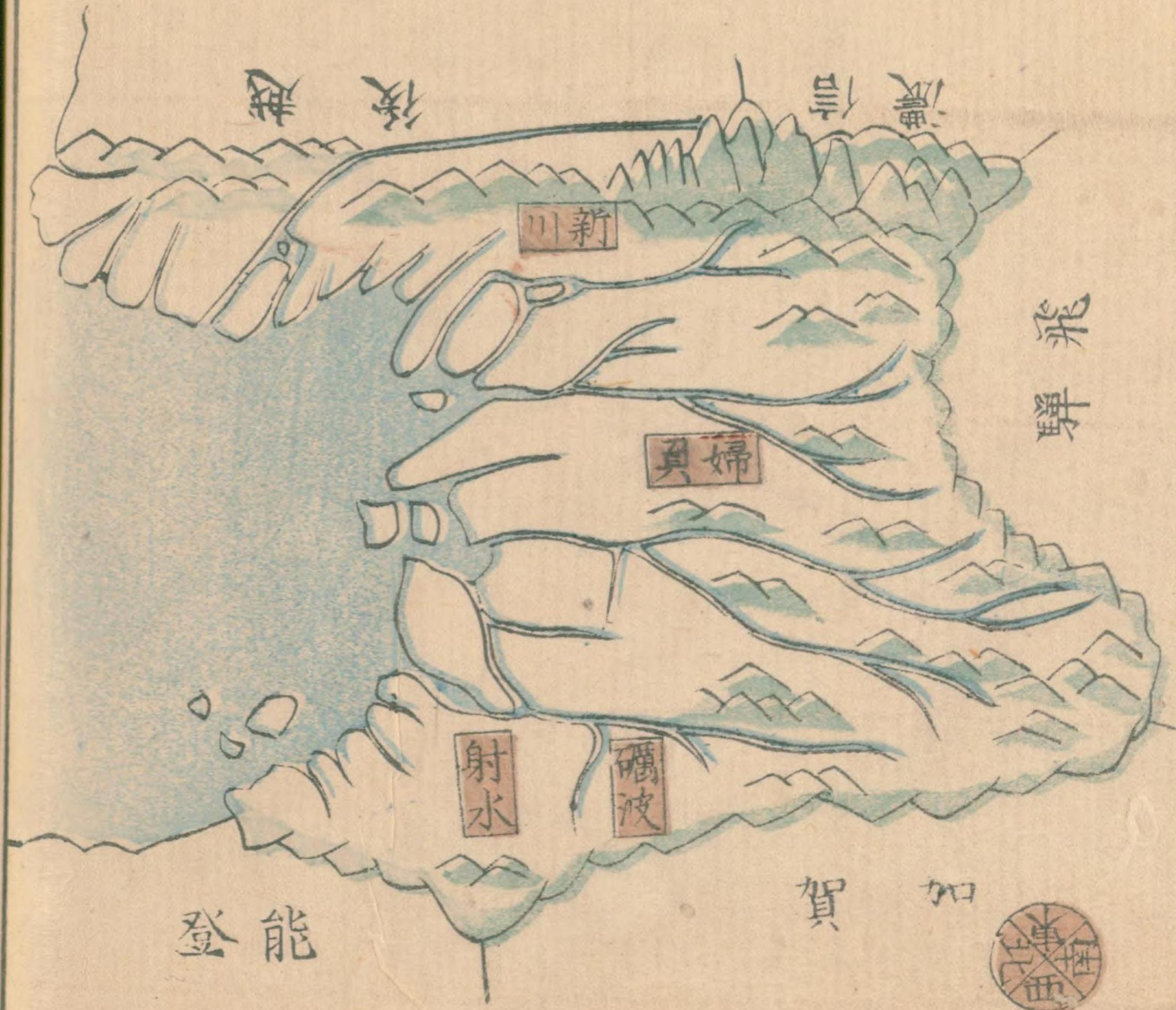
舊事紀小能等小作風土記小云此国
越前越中の間へ張出たる国なれば
北国往來の船此国を泊とよす故
能門と云海中乃塩合の名より後
能登と書改むと云續日本紀小養老
二年越前国羽咋能登鳳至珠洲の
四郡と割く能登国とよす
天平十三年能登国と越中国小
りて天平宝字元年小あり

能登城あり



越中 上四郡

越の名義越前の条より
續日本紀より文武天皇
大宝二年三月越中国の
四郡と云けり越後より
属す天平十二年十二月
能登国と越中より
天平宝字元年五月又
元ふふくま



越後 上七郡

名義前小と云り和銅元年
九月越後国より出羽郡と云り
同五年九月越後国を割り出羽
国をわく

神亀十五年二月佐渡越後
あり天平勝宝四年十月
まゝ旧ふふくす孝徳帝
三年淳垂沼垂郡小冊と
かゝり蝦夷小備ふと
あり其他乃諸書
みも沼垂郡との
せり新羽郡の
のせり或云新羽
は元三島郡の郷の名



みてありと後小治
 ちりき郡とせし
 ちりきと此説一
 あらふやあつる
 沼垂今は蒲原郡
 属して一乃郷の
 名といふなり



佐渡中三郡

古事紀小佐度は作る和名抄小
 国府の雑太郡あり一説小佐度
 の佐波太の轉語にして雑太を以て
 郡とし府を置雑太の澤田あり
 或云く佐度のさうさの中畧あり
 さい多さうさとい湊の上畧ありと
 字の如くわする義はとも稱へり
 此国より加賀越中越後へ渡る湊多
 ら故小然云ふ古の多とさわや
 訓せり拾芥抄小佐渡国天平十
 五年二月越後の国小あはせられ
 天平勝宝四年十月ありとひ



国とせし

山陰道

民部省圖帳より山陰陸道とあり
西宮記小とものあち又うけとをわ
ちとあり北山抄小曾止毛乃道とあり

丹波上六郡

古事紀小且波小作丹波

風土記小丹波国浮田明神と

大山咋神ありむら丹波国

はと那湖とて其水赤うり故と

丹波といふ大山咋の神其湖

鋤一水濁るりいふ国と

あるまう一説小丹波の名義ハ

田庭あり一度會の外宮の

豊受大神此国小とあり

内宮の皇大御神の朝夕の御食

奉りし故小とあり

名あり



丹波中五郡

丹波の名義は上ふり

續日本紀小云元明帝乃

御宇和銅六年四月乙未

丹波国の五郡を割く

とありて丹波の国と

わく丹波と前と

いふくたふ此国と

丹波といふ

前後乃例小

なり



但馬上八郡

古事紀小多遲摩小作り舊事紀よ
但遲麻小作る国名風土記小
云應神帝乃御宇高麗より
献むる所の馬と當国の牧よ
放れしふりり多馬の国
と云後小但馬と改めしと
云總国風土記小山路多く
馬よて通行せし故小達馬
と云り或云田路端前
後の中間の意よて田路間
ふりりあはれり



因幡上八郡

古事紀小稻羽小作り舊事紀よ
稻葉小作る古事記傳小法美
郡より稻羽郷あれは是
より出する国乃名あり
倉一名義ハ稻葉より
や出さむと云ハ幡本記
諸神記小云因幡乃国ハ
武内宿禰幡持
當国小くくく
徒をわさむ故り幡
を因の義と云りて
因幡と云ふ



伯耆上六郡

古事紀小伯岐よみくる風土
記抄小云八岐乃蛇手摩乳
足摩乳の女稻田姫と云ふ
とせし故中み道入るる小
母わく乳さかしく來る姫乃
云母きこると故小母來の国と
云ふけしと云或書小云
伊邪那美命と此国と
出雲国との堺るる比
婆山小葬奉り
ゆより母君の
国ろろと云ふ



出雲上十郡

日本紀小云此国より
大蛇住居て雲氣之出
一故小出雲の国と云ふ
出雲風土記小云此国と
出雲と云ふけし故は
素盞雄尊の夜久毛多
都伊豆毛夜幣賀岐都
麻基微爾夜幣賀岐都
久流曾能夜幣賀岐袁と
つ神詠ふりて

出雲国と云ふ



伯耆

出雲

山陽道

民部省圖帳小山陽陸道とあり西宮
記小げとあり又そとをのこちま
り北山抄小加介止毛の道とあり

播磨大十五郡

題名風土記小云神功皇后三韓
征伐の時小あり霖雨ありし
う晴間を待と御船伐い
り故小国小號と云總国風
土記小播磨国と古磐余彦天
皇東征の後云此国の海辺ふり
この国ハ張る弓の如き国ありと
詔る故小張濱国と云藤原
明衡の新猿樂記小諸国の土産を
ありめられ中ふ播磨針と
り舊事紀小針間ふりければ
針小をよある国也



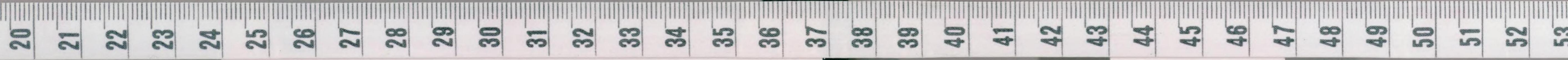
美作上十郡

風土記小曰天武帝大友皇子と戦ひ敗るひ
備前の国乃山中逃る老くる夫婦乃
者ありて醴酒と獻れり天皇是を美甘
酒と御賞美と云故小ウマザケ伐以と
国の名と云すと云一説小この国は
を云備前国より云れり
昔東郡より美和の郷あり
あり小續日本紀小和銅
六年備前国六郡を割と
始と美作国とわくとあり
この時美和郷とわられ
境と云と名小負ひて
美和境と云ると云り



三十七

三十八



備前 上八郡
 備中 上九郡
 備後 上十四郡

古事紀ふ吉備ふりくゝ
 或説く吉備乃名義ハ
 忝ふふ一因幡と稻羽
 阿波ハ粟ふとくゝ類ハ
 古事紀ふ大吉備津
 日子命と若日子命と
 二柱相副く針間ノ氷川
 乃前小思冠を居て
 針間を道口とて
 吉備乃国と言和み
 とり延喜神名式ふ備
 中国賀夜郡吉備津彦乃神



社とあり姓氏録左京
 皇別ふ吉備宿禰ハ
 大日本根子彦太
 瓊天皇皇子
 稚武彦命
 乃後より
 此等の神乃
 います国ふれち
 吉備の国とあり
 けふや總国風土記
 ふ六の国宝龜辛夷乃
 年勅して両国ふつち
 卯の年ふわけく三ヶ国
 とふせりと云養老五年



五月四日備前の
 邑久赤阪の
 二郡伐つけく
 藤原郡をわく神龜
 三年藤野とわく
 神護景雲三年ま
 和氣郡とす延暦
 七年此国小磐梨
 郡とすの養老
 五年四月備後の
 安那郡とすりて
 深津郡とわく



安藝上八郡

古事紀小阿岐小川
 風土記抄小云神功皇后三韓を
 征伐しつゝ時小まの国伐
 経る小一老翁ありて供具を
 せしけり是を獻す皇后是小飽
 ちたり故り安藝国とすあり
 撮土記小云三代實録小安藝
 津彦乃神ありて此国小
 在せり故小安藝の
 国といふ是を伊勢津
 彦伊賀津姫吉備津
 彦まとの如くまの國
 り在せり故小
 まの号とす



周防上五郡

古事紀小周方よりく風土記云云
此国海風波をひらき一砂埃のけく
磯山とよめる故小洲防乃国とあり
洲のりくれる国ある故小周防の
国とありと云或云藤原明衡新様
樂記小諸国の土産とありむ中よ
周防の籍とありむるふち乃国
佐波郡あり国府も其郡小あり周
防の佐波乃轉小く佐と須とは
常よりきく通ふ音あり
防も芳も波乃仮字とあること
うごひふと云わ

養老五年四月周防乃熊毛郡代

つげく玖珂郡とわく



長門中八郡

舊事紀小穴門は作和名抄小元穴の如き
水門ありゆえ小孝徳帝の御せよ穴門
と云其形の長故小後小長門と云
あり古事記傳小長門国と豊前国との間の
海門よて筑前国の北面の海より山陰道の南
門小入門あり穴門と名小負く故今川了
俊が道行ありと云物小云霜月の廿日長門の国
府を出て云はくも穴門の豊浦の都とや侍事ハ
今の赤間関と門司関とのほのものと山とある其
中よ纒小潮乃満千の路より穴のやめて侍
ふ其岸の東西小人家繁くけり穴門といはて云
り其と皇后乃軍の御船通り難くけり小御船よ
とひて後一夜の程よ此穴門の山引合て今の早鞆の渡小成ぬと云
是即海門と云意成物と云り仲哀天皇紀小洞海と有も此門と云り



南海道 西宮記西宮記 *Sanjūji*

紀伊 上七郡

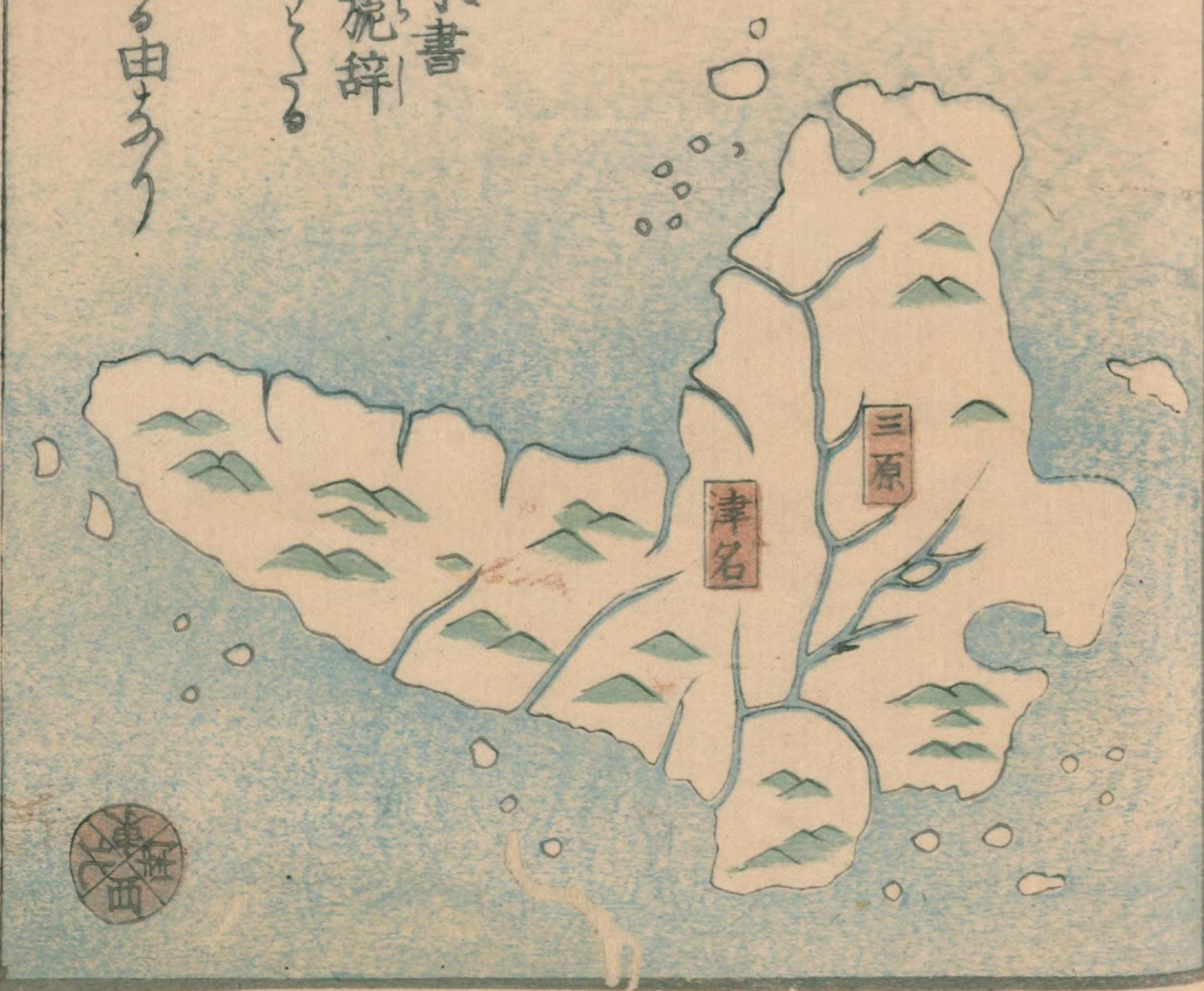
古事紀小本國小作和名抄小紀伊の名義の木
國多りり日本書紀神代卷小素戔嗚尊の
御子五十猛命と云妹大屋津姫命
次と抓津姫命凡と三神もみみる
く木種も分布のも仍と紀
伊國小わり云風土記小曰む素徐菴
仙蔡と郷人等奇異の人もりとまとて
故紀伊とりり又此國小來り以て來の
國と号しと云り皆和名も用ひて紀伊と云ふり



淡路 下二郡

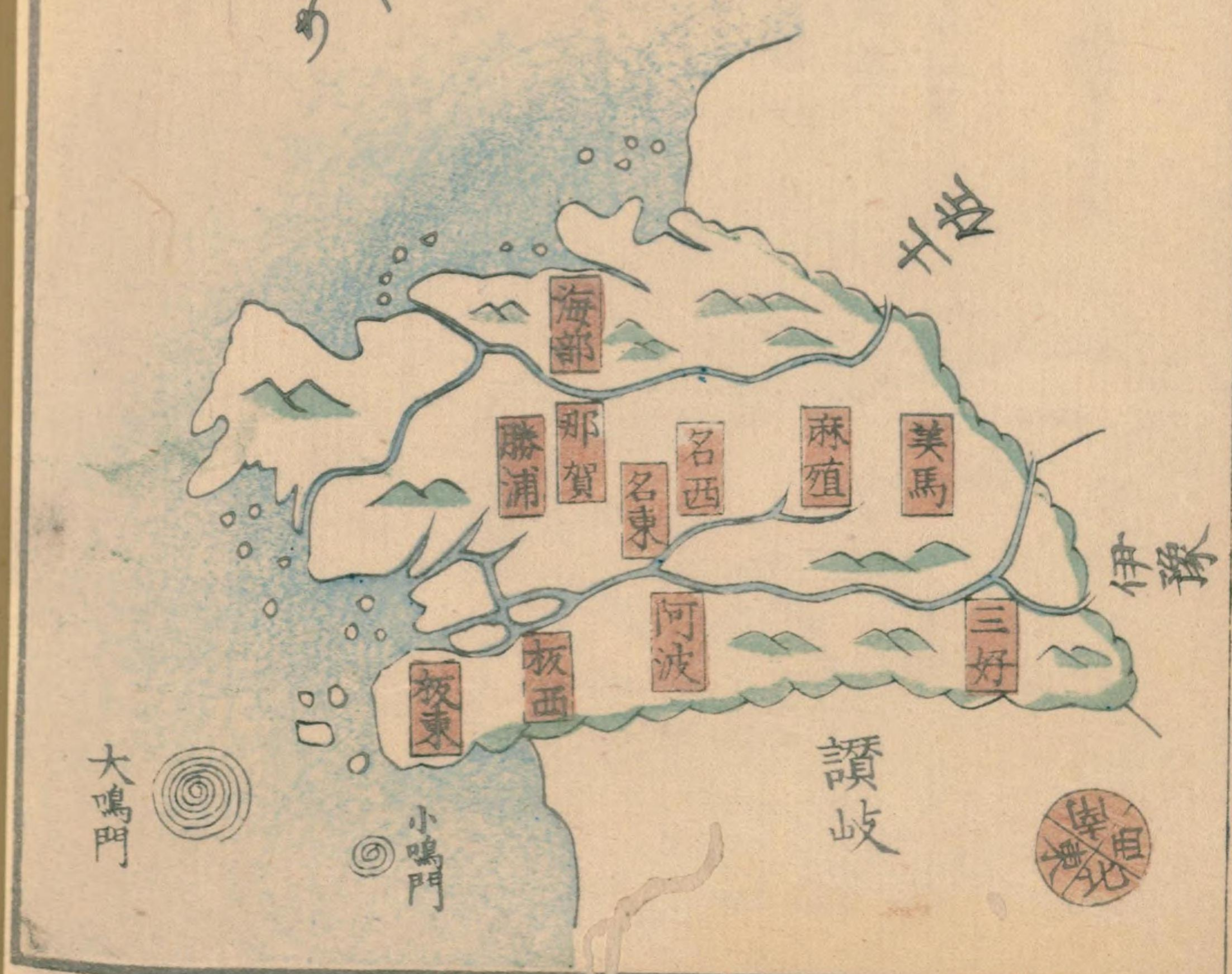
古事紀小淡道小作神代の卷小於是陰陽
始と講合して夫婦と
る産時小りりて
先淡路洲を胞とす
所あり故小是をり
け淡路の洲と云吾耻の
謂ありと云古事記傳小日本書
紀應神帝の御歌り阿波施辞
摩とあり名義の阿波國へり
海もり小あり島あり

阿波路あり由あり



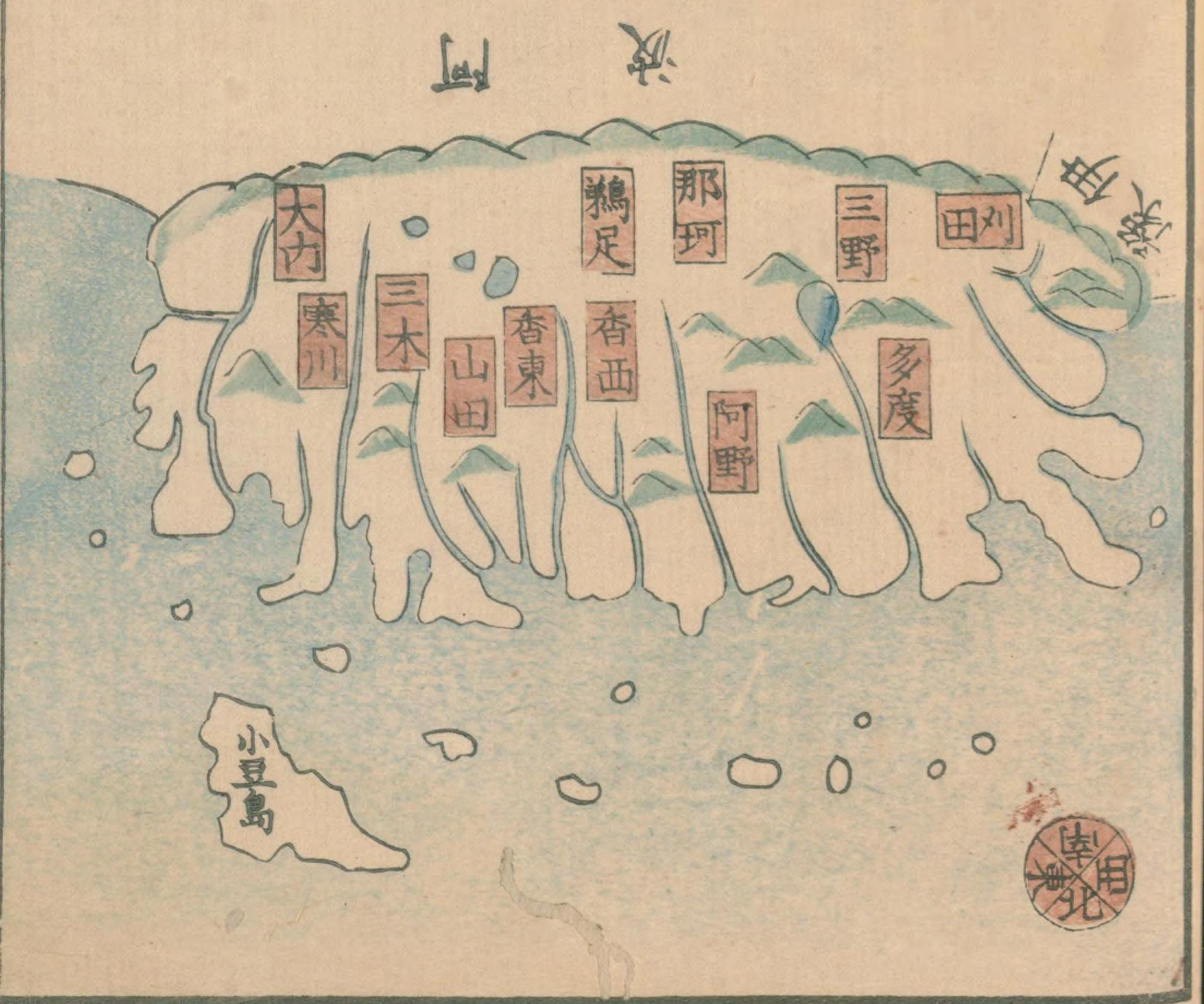
阿波上九郡

古事紀小淡国小作り
 舊事紀小栗国小作り
 古事記傳小栗日本紀小
 栗田とひ神武帝の
 御歌も阿波布と
 りみひて古小珠
 多くはくま物あり
 故栗のよく出来る国あり
 故乃名あり日本紀小云
 二神先淡路洲淡洲とあり
 肥とすと云淡洲と阿波あり
 初生ふして淡とあり



讃岐上十二郡

日本紀小讃吉ふりく古語
 拾遺み手置帆負命の孫
 矛竿城はくそ乃後裔
 今これ讃岐国あり
 毎年八百竿城くそあり
 とりり是ふより思ふ
 竿調国とりり乎と省き
 乃都と約きは佐奴岐あり
 風土記小云天照太神の
 御初夜とりりありあり
 国ありふりりく国の名
 とす讃岐ハ早脱ノ謂ふや



伊豫上十四郡

舊事紀伊余或ハ伊與作イヨ或説小萬葉集オホノナラフ白浪乎伊余
 尔田之イカシとあり伊豫ハ阿波讃岐伊余土左イサの四国シツクニ總トする
 名小く是もと一國の名あるが大名ナメふカれること
 筑紫ツクシ乃よと一真野時繩マキノト乃云國の名ハ国魂クニタマ
 神号カミナリの伊與津彦伊與津姫イヨツヒコイヨツヒメの名小因て
 起タりト云ク大同四年九月小伊豫
 国神野郡カミノノ新居郡ニイノとイくニ



土佐中七郡

古事紀コトシ小土左チサ小作りサクリ舊事紀キウジ小都佐ツサ小作りサクリ古事紀傳コトシ
 小言コト離リ乃ノ畧リョウありト古事紀コトシ小天皇ミカド葛城カキの山上ノ
 小登トりト云ク吾ガハ惡事アクコトとイくニも一言善事イツンゼンコトとイくニも
 一言言離イツンゼンリ乃神葛城カキ乃一言主イツンヌの大神オホカミありトあり
 此神コノカミの在アりト故ユ小名ナ号ナリ一イツ名ナ風土記フツキ小云素コトクニ
 蓋フタ烏尊カラスノミコの御ミコトはハれトすニも一イツ名ナ國クニありトあり
 神カミの御心ミココロ甚オホ利トクくアりトすニも一イツ名ナ國クニありトあり
 利勝トクシりトいハわカきトすニも一イツ名ナ國クニありトあり
 下りて國クニ乃名ナ
 とはとせ
 一と云



西海道

民部省圖帳小西海濱道とあり西宮記
ふに一のこまら又ふのこまらとよりの

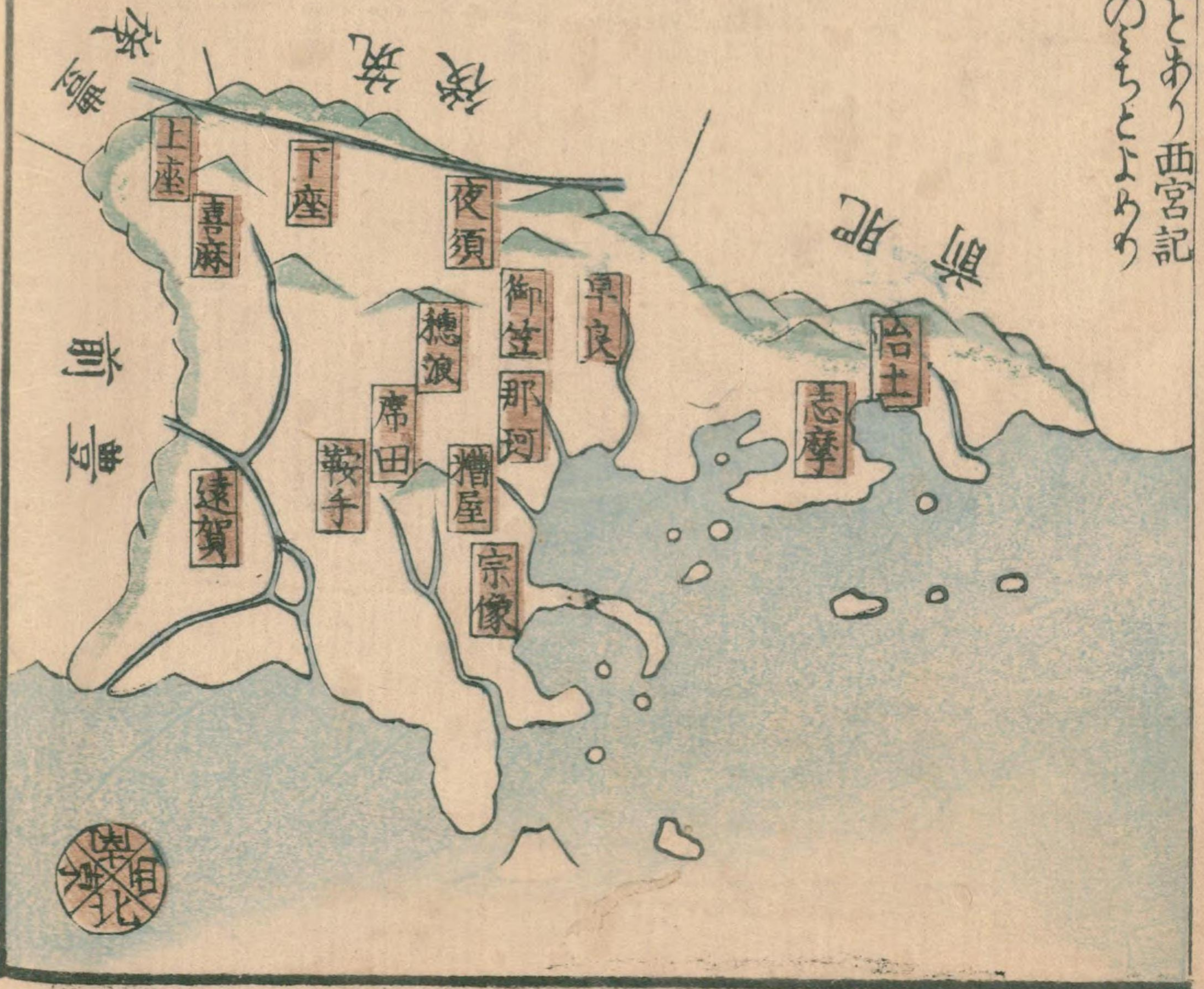
筑前

上十五郡

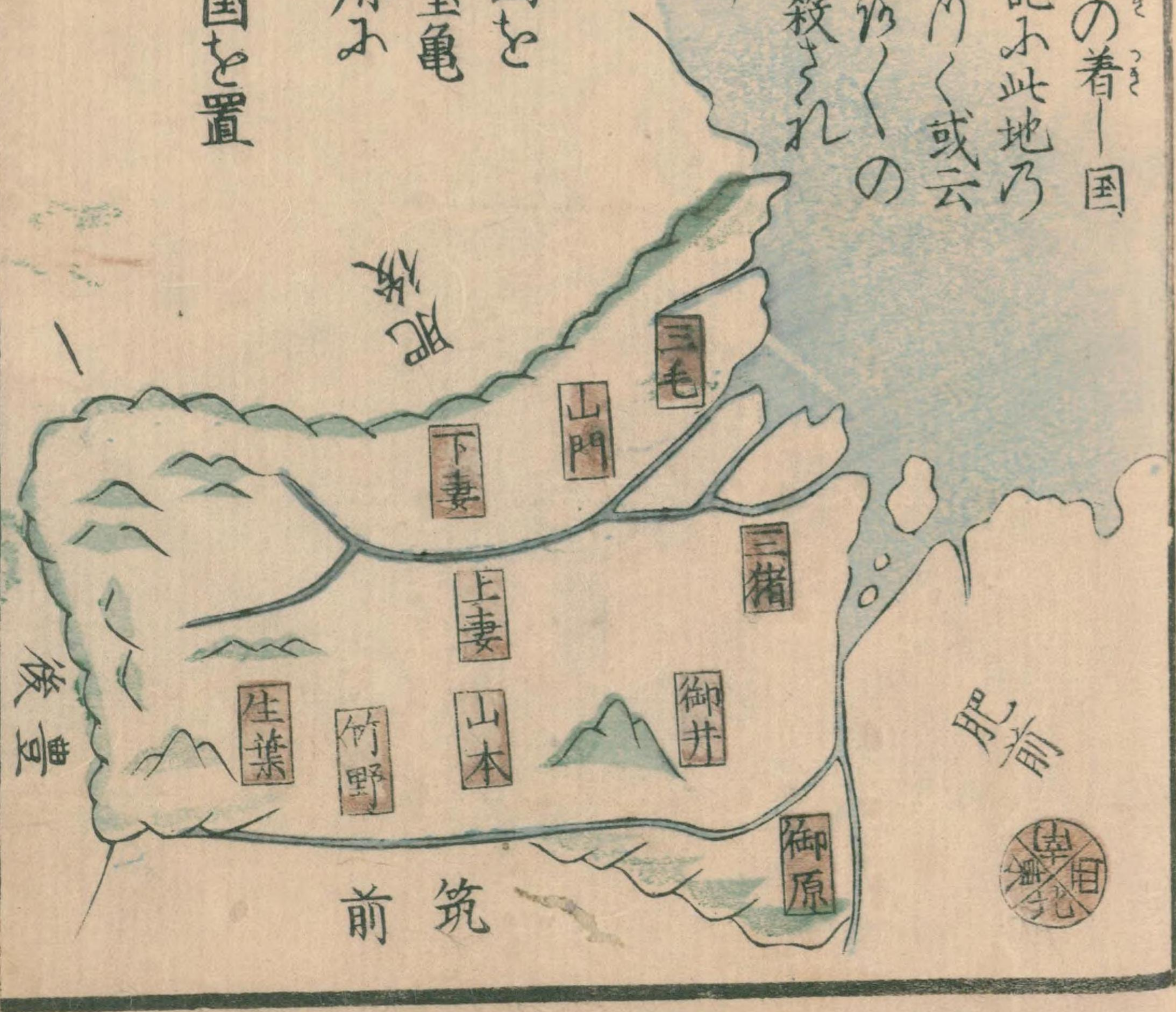
筑後

上十郡

貝原篤信り釋名ふいみへ
異国より賊兵かこみ來る
防ふむとそよ乃海濱小石
垣とりうせられ故小築
石と云一説小萬葉集小馬
乃小築茶とはけけよる
小依て國の果小く人乃
行至る極まされと盡と
云風土記抄小云允恭帝
の御宇小異国より茶
草を貢りる筑茶の地



小着り筑は着の意ふて茶の着ー国
なれば国の名とす釋日本記ふ此地乃
形木菟乃体の如き故ふあり或云
むりー此界乃不とりふを治くの
猛き神ありて往來乃人を殺され
小其數きわめと多ー
故小人命盡神と号
と云今筑前国御笠郡
筑茶の神社是あり故小国と
筑茶とよめく拾芥抄小宝龜
二年筑前と廢して太宰府小
入る大同三年ふふひ
よ乃国を置



肥前 上十二郡
肥後 大十四郡

日本紀云景行帝十八年

五月壬辰の朔葦北より御船を

出され火の国小至る此小

日暮ぬ夜くくくして着岸の

所と知りては遙小火

光と誌帝披抄の者小

詔して直小火の所を

さして往りては

即御着岸を得られ

り其火の光所は何と云邑と

問多し是ハ八代の縣乃豊村と

答ふ亦其火誰人の火あるを

尋らば終ふ其主を知得ざり



是ふと人火ふあゝる事をとらぬ

故小国と号て火の国と云又一説小

昔磯城瑞籬宮御宇御間城帝の

御世に肥後国益城郡朝來名の

峰小土蜘蛛あり云ハ八代郡白

髪山小到る日暮て止り宿

其夜虚空小火あり自然

燎やかり降り此山小着焼

云火空より下り山を焼其

怪火の下る国とされ火国と

ありて肥の字とせし好字

ありて肥の字とせし好字

ありて肥の字とせし好字

ありて肥の字とせし好字

ありて肥の字とせし好字



豊前 上八郡
豊後 同

古事紀云豊国小りく職原句
解云此国小豊日別神鎮座
よはす故小豊国とありく
風土記云民家豊饒義より
て豊国と云り日本書紀景行
帝十二年云帝筑紫小幸あり
豊前国長峽縣小到り行宮建
る居る故小の所とありけ
て京都とあり冬十月碩田国小到る
其地形廣大小て亦麗此国名の
義小りくわたりき此国の風土記
小いむく纏向日代宮の御宇大足彦
帝豊国の直等の祖菟名手小り



て豊国小はくわり治り
云云即菟名手小勅して
云天の瑞物地の豊草汝の
治る國(豊国)といふ
因て重く姓もいふて
豊国直といひ因て

豊国といふ



日向 中五郡

古事紀云天津日子番能迹之藝命云筑紫日向之高千穂の久士布流多氣小降りあり云、朝日の直刺国夕日の日照国あり日本書紀云景行帝の十七年春三月子湯の縣小幸あり丹裳小野ふく東を望みひ左右小宣けり是国は直小日の出る方小向ふ故也其国ともひりけて日向の国と云とありわれを神代ありさる故ありて景行帝の御世あり



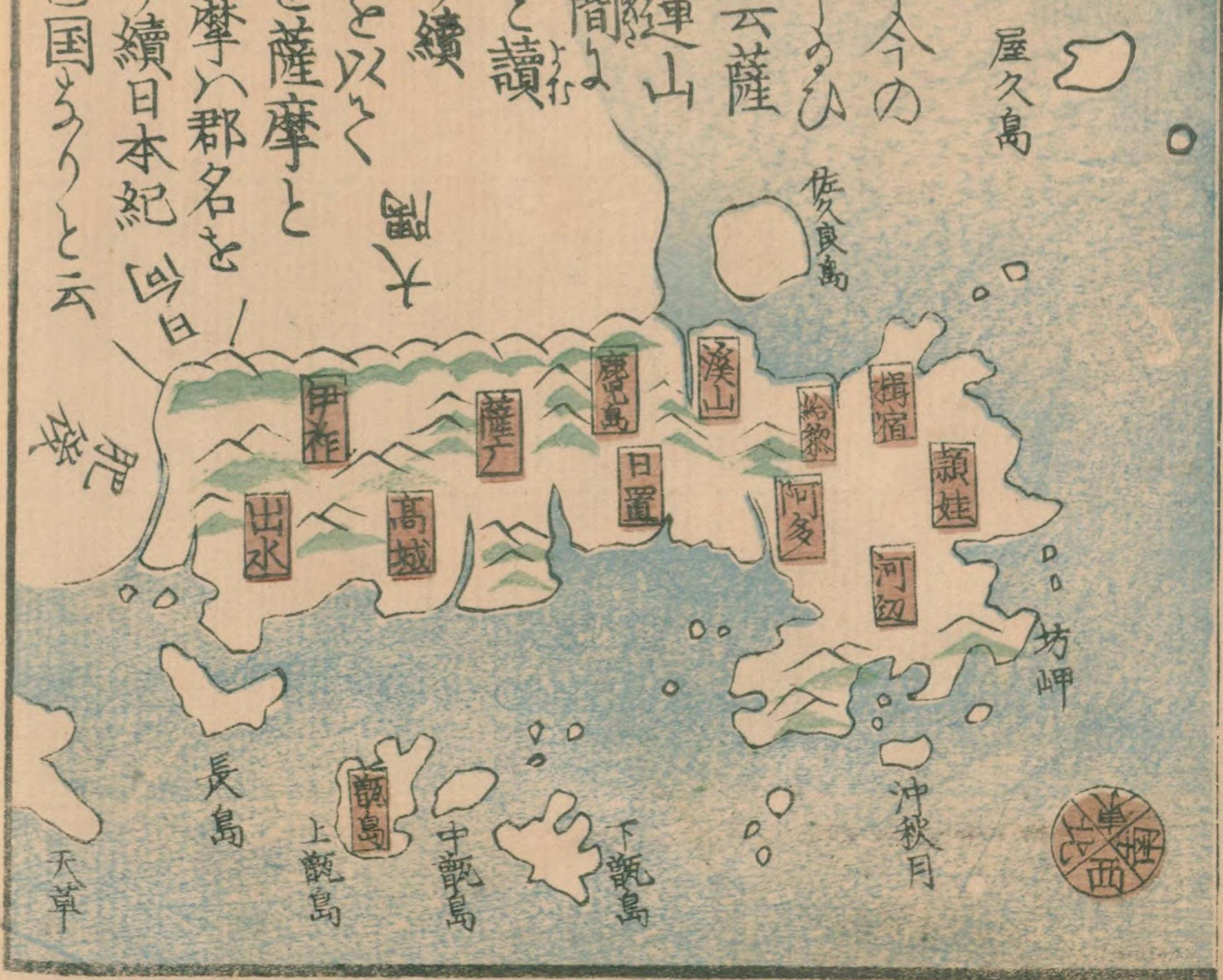
大隅 中八郡

風土記云富国小三隅の島岬ありゆへ大隅とありと云一説小日向国内小西南の隅より差出るとゆへあり大隅郡とありけり續日本紀云元明帝乃朝小日向国の肝坏贈於大隅始羅の四郡と割くと云り大隅の国とわくと云ありまろ郡名をのりて国名とありすあり天長元年九月多禰島国とありて大隅小隸



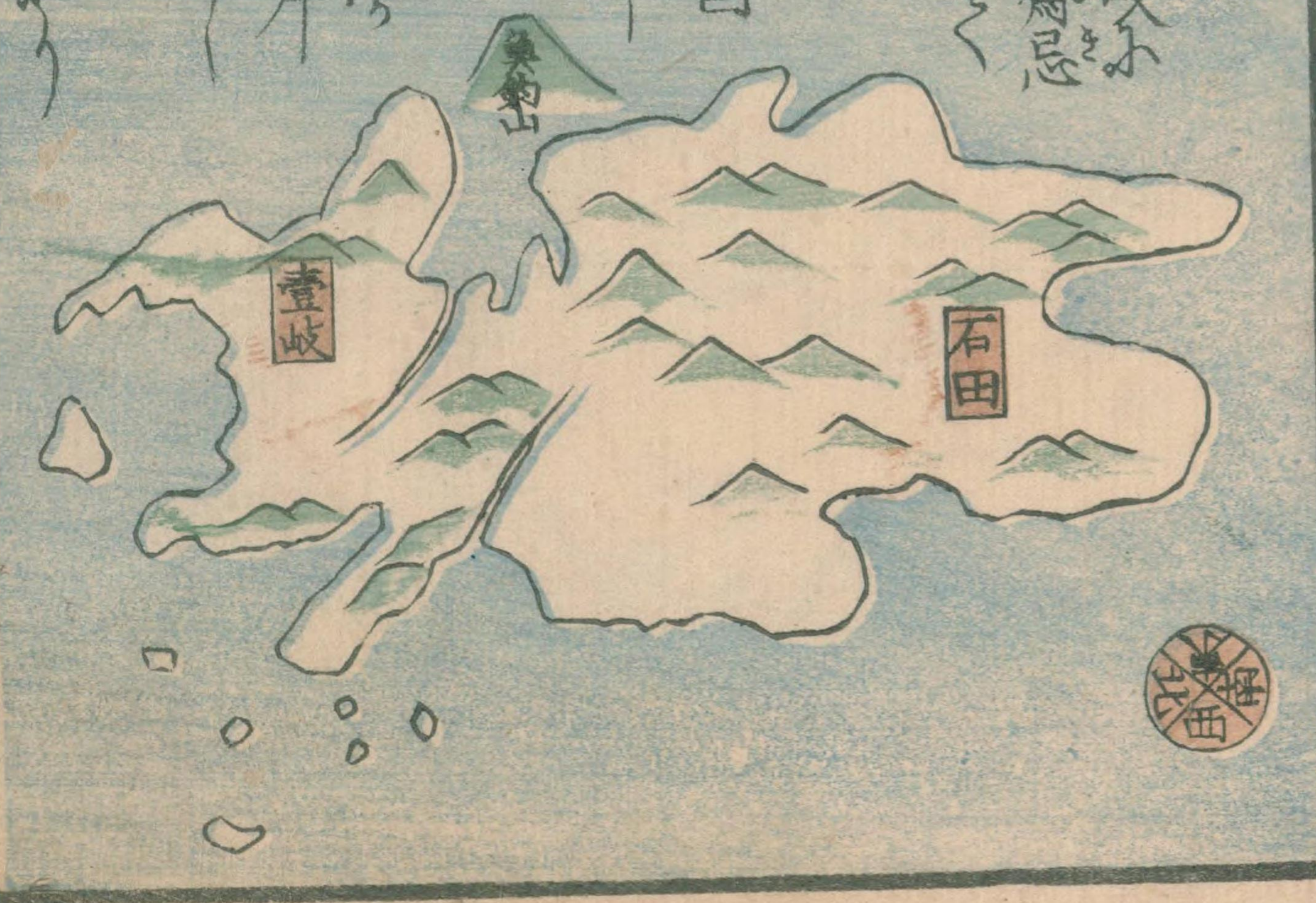
薩摩中十三郡

或説小薩摩ハ幸濱ありむ
 さしハ瀾すこと云あり
 又或説小幸島の義あり今この
 鹿兒島の内海ハ天孫漁獵あり
 故址あり日本釋名云薩
 摩ハ陸間あり字書小陸と連山
 の中絶あり此国山連り間
 あれとあり陸和訓ハ佐知と讀
 萬葉集ハ陸妙觀と云あり續
 日本紀ハ薩妙觀ハ作音を以て
 訓ハ代て用ひハ陸間と薩摩と
 づも右小同ハ薩摩ハ郡名と
 あり今国名と云ヤ續日本紀曰
 小云唱更の国ハ今の薩摩の国と云



壹岐下二郡

舊事紀ハ伊吉ハ作り古事紀ハ伊岐ハ
 りく或説ハ日本紀天武帝の巻ハ齋忌
 是と踰既と云此島ハ神祭坐と云
 齋忌のことあり故の名ハモヤ
 あり又ハ漢国ハ渡るハ先此ハ舟
 とりて息む故ハ息の島と云此国
 の風土記ハ伏ハ郡の西ハありむ
 鰐鯨と追て走來りて隱伏と云故
 小鯨伏と云俗ハ鯨と云と云
 わりハ壹岐ハ鯨來の畧と云
 又日本釋名云雪と云此国の海岸
 浪高と云潮の白と云雪のよ
 故ハ国の名と

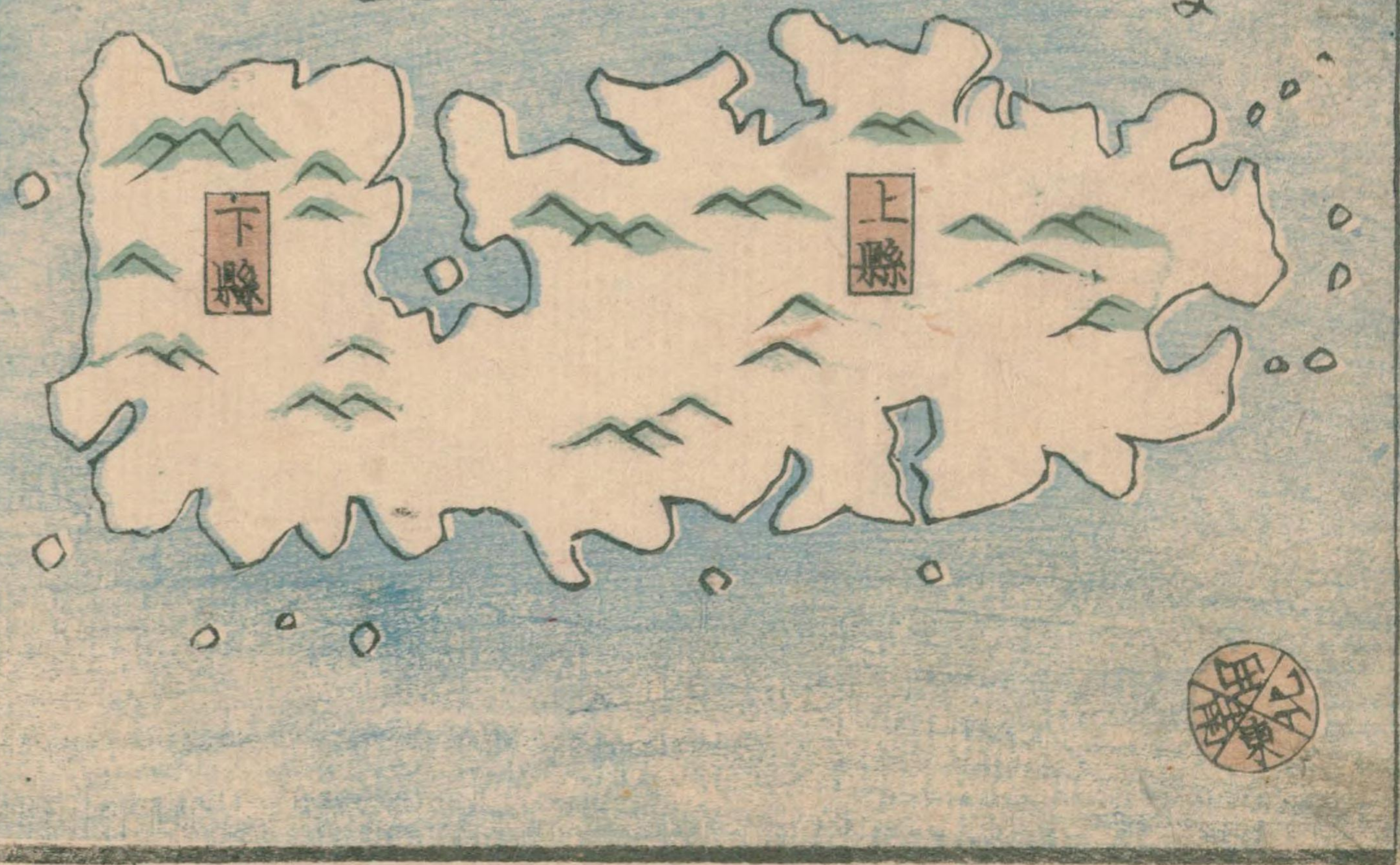


863
54

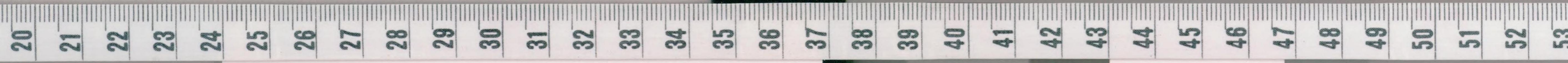
14274

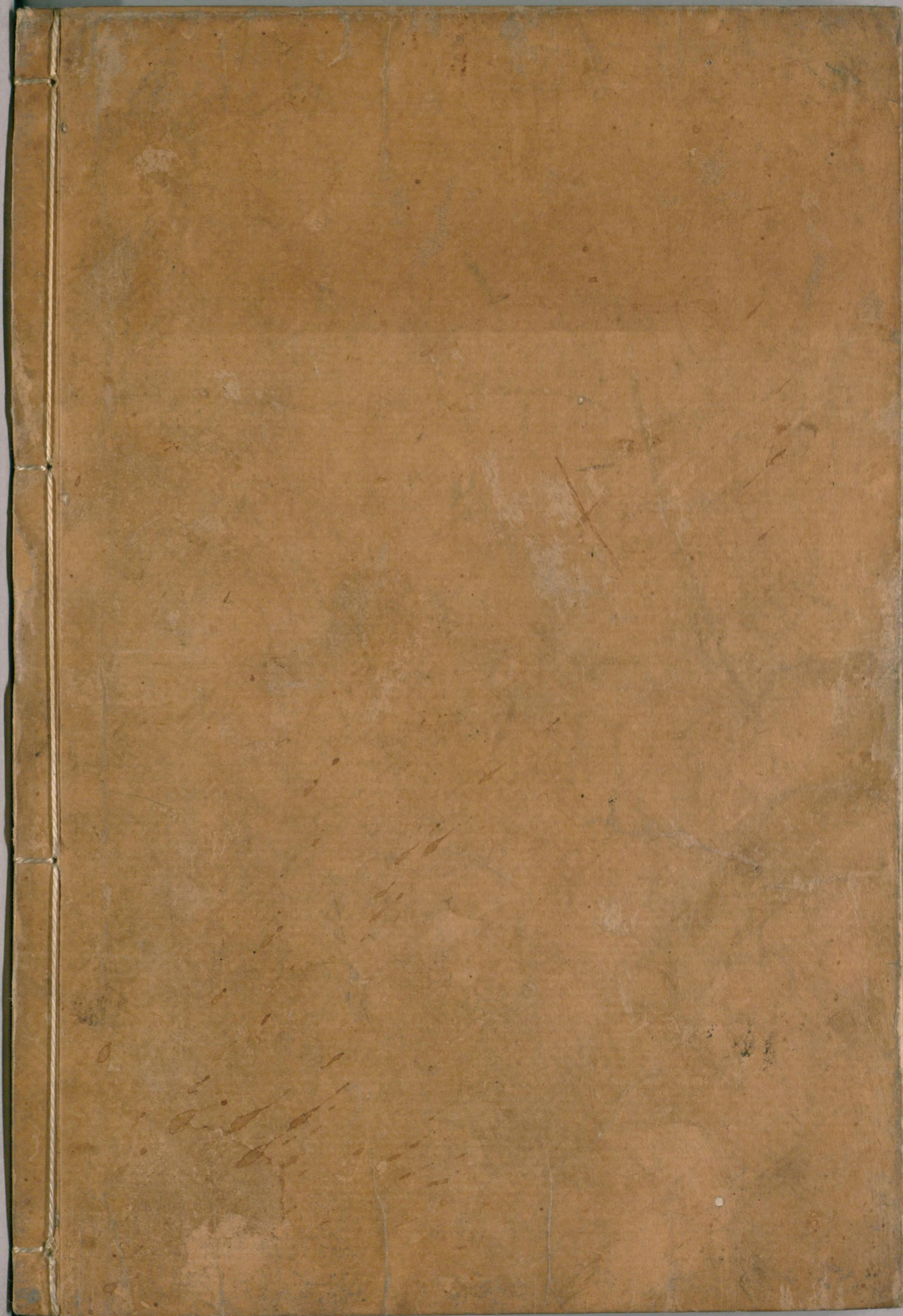
對馬^{りま} 下二郡

古事紀小津島ありて日本紀纂疏
對馬と津島と云う如く海津の中
ありてこの島あり古事紀傳
名義と萬葉集ふも母布祢乃波
都流對馬云々如く韓国の
往還の舟の泊る津と島と云
は此義あり延喜式民部省の式
云く陸奥国出羽国佐渡国隱岐国壹
岐島對馬島の以上四国二島と
云ふと云往古壹岐對馬多祿島
の三島ありと淳和帝の御宇天長元
年多祿島と云ふ大隅の国小
島ありと云ふ



470
270





国立国会図書館 タイトル『日本州名解』 請求記号 863-54

ガラス使用